日本中国語学会々報　2012年12月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶　古屋昭弘（会長）……1
2012 年度全国大会総括……2
2012 年度学会奨励賞の選考経緯……3
支部例会実施報告　2012.6 - 2012.11……4
会則・内規改正のお知らせ……10
会議報告……11
例会および全国大会開催のお知らせ……19
事務局からのお知らせ……19

ご挨拶

古屋昭弘（会長）

去る 10 月 27 日と 28 日の二日間、紅葉の美しい同志社大学京田辺キャンパスにおいて、第 62 回全国大会が開かれました。周到な準備をして下さった開催校代表の沈力先生、中西裕樹先生をはじめとする同大学スタッフ、遠藤光暁委員長をはじめとする大会運営委員会各位、そしてご来場の会員の皆様、出店された賛助会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

初日は、徐丹先生の講演のあと二会場に分かれてワークショップが開かれました。これは初の試みですが、会場の配置が良かったこともあり、とても有効に機能していたと思われます。遠くフランスから来日された徐先生、そして綿密な準備のもと発表して下さった諸先生方、本当にありがとうございました。

二日目の分科会、各会場とも熱気に溢れていました。ポスターセッションもすっかり定着した感があります。今回は他の行事と時間が重ならなかったこともあり、会場は大変な賑わいで、そこかしこで真剣な議論が為されていました。

初日の総会では今年度の補正予算と来年度の予算案を承認していただきました。表面的には黒字に見えますが、純収入・純支出の面から言うと決して安心していられる状態ではありません。事務局としてはもちろん今後も経費削減に努力する所存ですが、会員の皆様にも特に会費納入などの面でご協力のほどどうかよろしくお願い致します。

今回の評議会や総会では支部例会ハガキ廃止の方向も承認していただきました（勿論ご希望の方には郵送を継続）。今後は郵便による情報伝達が減り、e-mail やウェブ上での伝達が益々増えることが予想されます。正確なメールアドレスの登録を切にお願いする次第です。e-naf によりご自身で修正もできます。

来年度の全国大会は東京外国語大学で開かれます。皆様奮ってご参加ください。

2012 年度全国大会総括

Ⅰ．今年度大会総括

第 62 回全国大会は、同志社大学京田辺キャンパスを会場として、10 月 27 日［土］、28 日［日］に開催された。

（1）参加者数

参加者総数は 370 名、うち一般参加者が 327 名、書籍等の展示関係者が 43 名である。

（2）総評

今回は、ここ数年目指してきた合理的な大会運営が体現され、シンプルではありながらも細かいところまで気配りのきいた大会であった。

初日の徐丹氏（フランス国立東洋言語文化大学）による講演「从不同的视野研究汉语」は、ご自身による西北方言の調査結果を取り入れつつ、人文学の枠組をも超えた広い視野から中国語研究を進めることの必要性を説いたものであり、来場者は大きな啓発を受けた。質疑応答では比較的若手の会員からも質問が相次ぎ、若い世代を中心にこうした視野の広い研究を受け入れる素地ができつつあることを実感させた。

今回から導入された「ワークショップ」では、二つの会場に分かれてセッションを行った。第 1 会場では、朱春躍会員の企画になる「実験的手法による言語研究およびその教育への応用―中国語・日本語・英語を中心として―」が行われ、朱春躍、林良子、横川博一、孟子敏の 4 氏が、実験的手法による音声・統語論・意味論研究を教育面に応用するための方策について述べた。実験データを可視化することと、それを学習者へのフィードバックとして使用することの距離が、新しい手法の開発によって次第に縮まりつつあることを予感させる内容であった。第 2 会場では松江崇会員の企画になる「漢語詞彙史研究的回顧與展望」が行われ、方一新、竹越孝、松江崇、鈴木史己の 4 氏が、上・中古漢語、近代漢語、方言地理学の各側面から語彙変化の動機とメカニズムにアプローチした。それぞれの分野が連携して取り組むべき課題も提示され、現代漢語の研究者にとっても示唆に富む内容であったと思われる。いずれの会場においても活発に質疑応答がなされたことは、「参加者も共に考えて結論に至ろうとする」というワークショップの本義にかなうものであり、今後もこういった形で学会が共同研究推進のために活用されることを願う。

ポスターセッションは昨年度までと異なり二日目の昼に設定したが、午前の分科会と昼食との間の時間帯ということで来場者が多く、各ブースにおいて活発な交流が行われた。分科会における研究発表についても、特に大きなトラブルは報告されていない。

今大会を大過なく終えることができたのは、ひとえに沈力・中西裕樹両会員を中心として組織された開催校スタッフのご尽力の賜物であり、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

（3）改善点、反省点

■昨年度は応募受付時や審査結果発表後に多くの不都合が生じたが、応募規定の改訂等に伴い、今年度は目立った問題がなかった。

■分科会では昨年度と同様、一つの発表ごとに 5 分間の休憩を挟んだ。パソコンの調整や

発表者と参加者との意見交換などに活用されており、今後も必要と思われる。
■分科会発表における講評のスタイルも定着してきた。現段階で講評を行うのは大会運営委員が司会の場合に限られるが、その枠を拡大することも検討してよいかもしれない。
■分科会会場で追加資料を配布しようとした発表者や、予稿集の内容と甚だしく乖離したプレゼンを行った発表者が見られたことは残念であった。予稿集の価値を下げないという観点から、本委員会は分科会会場での追加資料配布を認めないという方針を取っており、また予稿集と大きく異なる内容を発表することは、司会者・来場者との信頼関係を損ねる行為である。発表者におかれてはこうした点をぜひご理解いただきたい。
■ポスターセッションの発表者に対し、ポスターがいつから掲示可能かということを周知していなかったため、会場準備との関係で若干の不都合が生じたことは反省点である。
■大会参加受付・懇親会受付の態勢を変更したことや、名札・参加者名簿の配布を取りやめたことについては、歓迎の声とともに若干の戸惑いの声も聞かれたが、これは開催校の負担を減らすために本委員会が合理的でシンプルな大会運営を模索してきた結果であり、ご理解いただきたい。

Ⅱ. 来年度の全国大会にむけて

（1）来年度の第 63 回全国大会は東京外国語大学（東京都府中市）で開催する。10 月末開催を基本とするが、最終的な日程は 2013 年 4 月に確定する予定である。
（2）今回大会からワークショップが新設され、ここ数年でこの形式を軌道に乗せる必要がある。よって、来年度も初日の企画は招待講演１本＋ワークショップとし、二日目に分科会発表及びポスターセッションを行うという方針で臨みたい。ワークショップは企画者・発表者間の緊密な連携と入念な準備を要するため、応募時期は一般の発表申込よりも早く、2013 年 3 月 1 日（金）より 3 月 18 日（月）とする。詳細については 2012 年 12 月末までに学会ホームページに応募要項を掲載するので参照されたい。
（3）来年度も、一般発表の応募要項はホームページでの告知のみとする。4 月初旬頃までに学会ホームページに掲載されるので、その要領に沿って応募されたい。
（4）開催校と大会運営委員会が連携して大会準備を行う方式はなお過渡期にあり、今年度の経験をふまえて更に改善を進めたい。毎年発表応募者数が非常に多く、開催校の引受先を見つけるのも大変に困難である。今後も極力簡素化を図って負担を減らしていく方向であり、引き続き応募者・参加者のご理解とご協力をお願いする。（全国大会運営委員会）

2012 年度学会奨励賞の選考経緯

編集委員会では，今年 3 月の第 1 回編集委員会において，『中国語学』258 号に掲載された論文の中から学会奨励賞の選考対象とする論文 3 本を選出し，さらに 5 月に開かれた第 2

回編集委員会において，選考対象論文 3 本について慎重な協議を行なった結果，以下の論文を 2012 年度の学会奨励賞受賞論文の候補とすることに決定し，この案が理事会において承認されました。

学会奨励賞受賞論文
論題：上海語声調音韻論における窄用式変調の地位
著者：髙橋康徳（東京外国語大学・大学院）

【選考の経緯】

本論文は、音声的な現象であるか音韻的な現象であるか意見の一致を見ない新派上海語の「窄用式変調」を取り上げ、音響音声学の分析手法により、変調後も陰平声と陰去声との間に発話速度と関係なく調型の有意な差があり、かつ本来の調型と所謂変調後の調型との間には相似性が見られることに基づき、「窄用式変調」が音声的な現象であることを実証したものである。

本論文は音声学の手順をきちんと踏んだ実験のデザインにより、明快な結論を導いていること、適切な統計処理が行われたため、実験の結果が信頼すべきものであること、音韻論的な解釈を重視しながらも音声的事実を重視し、あくまでも実証的研究手段により音声的事実を確認したうえで結論していること、当研究分野における今後のあるべき方向性を示していることが評価され、編集委員会出席者全員一致で奨励賞受賞論文として推薦され、理事会で承認された。

なお、査読段階では、枠文の発声データのみに基づく考察であって、自然発話の考察が欠けていること、また、実験室発話のデータ分析のみで、それを検証するための知覚実験を行っていないこと、が指摘された。しかし、学会誌論文としてそのすべてを盛り込むことはボリューム上無理があり、また執筆者も「むすび」で述べているとおりその点を自覚し、今後の課題としているので、今後の研究の進展を期待したい。

（編集委員会）

支部例会実施報告　2012.6 - 2012.11

◆関東支部例会

◇2012 年 6 月 30 日（土）青山学院大学

・朴在淵（韓国鮮文大学翻訳文献研究所）关于新发现的抄本汉语谚语集《华语抄略》

《华语抄略》是一种新发现的抄本汉语谚语集。本稿介绍此资料的同时与其他文献上的谚语进行对比，以考察此资料所记载的谚语特征。

・金雅瑛（韓国延世大学・院／鮮文大学翻訳文献研究所）：民國時期漢語口語教材中的反復問句考察

現代漢語最常見的反復問句式有兩種：一是“VP 不 VP”，二是“VP 沒有”。從古代到現代，反復問句的句式經歷了許多形式的變化。其中，本文主要通過民國時期的漢語口語教材探討初期現代漢語反復問句的特徵。

・赤平恵里（慶應義塾大学・非）：現代中国語新語の研究状況

改革開放後に誕生した新語は、その誕生数が膨大であるため、昨今研究が盛んに行

われているテーマの一つである。そこで、本発表では、中国と日本における研究状況に基づき、その新語がこれまでいかに研究されてきたのかを明らかにしていく。具体的には、建国後から現代に至るまでの中国語新語の研究状況・特徴を論文・雑誌記事を用いて概観する。加えて、新語に関する専著・辞典などを通して、新語という術語の問題、主要な研究内容およびその問題点について掘り下げて考えていきたい。

◇2012 年 9 月 29 日（土）慶応義塾大学

・辛奕嬴（杏林大学・院）：从认知语言学的观点看汉语“的”的语义变化及语法化

助词“的”在现代汉语语法中占重要的位置。现代汉语“的”是沿着形容词＞名词＞副词＞助词的方向，通过语法化发展而来的。但是，“的”的语法化不是直线发展的，而是受着复数要素的影响。本研究从认知语言学角度揭示汉语“的”的语义发展及“的”的语法化特征。同时，揭示现代汉语“的”可以连接两个名词的根源。

・大野広之（慶應義塾大学・非）：『大藏全咒』にみられる文殊菩薩真言陀羅尼についての一考察

発表者は昨年度本学会関東支部例会において、不動明王にまつわる真言陀羅尼について『大藏全咒』所収のテクストをめぐって考察を加えたが、本発表では、十三佛信仰の観点から文殊菩薩に関する真言陀羅尼について満漢二体を中心にして考察を加えたい。文殊菩薩真言が十三佛諸真言とは異なる特徴を持つ所以は、還梵した際に意味を有することがなく梵字悉曇字母表の最初に出る字母を配列させたのみという点にある。清代の同文政策の中で『大藏全咒』に収められた文殊菩薩についての真言陀羅尼と日本で一般に読誦される真言（五字文殊）とを比較しながら考察を加えていきたい。

◆北陸支部例会

◇2012 年 7 月 28 日（土）金沢市近江町交流プラザ

・杉村安幾子（金沢大学）：大学第二外国語教育における中国語初級教材の編纂

日本の大学における第二外国語としての中国語の学習者数は、詳しいデータは不明であるが、おそらくドイツ語学習者数と比肩するか、或いは既に堂々の最多を誇っていると考えられる。これは日中の交流史や現在の世界情勢における中国のプレザンスを考えれば、何ら不思議ではない。発表者は在籍する金沢大学の学生を対象とした中国語教材を 2006 年と 2011 年の 2 回編纂(共著）しているが、定評のある既成教材ではなく、改めて教材の編纂を必要としたのには、大学の第二外国語教育のある逼塞状況を背景としている。本発表では、そうした逼塞状況の打破を目指した中国語教材の編集方針や、改訂版の改訂理由、それぞれの教育効果を検証・考察し、大学の第二外国語としての中国語教育について考えてみたい。

・大瀧幸子（金沢大学）：事象と属性の間―中国語形容詞の場合

現在の言語類型論では、動詞と名詞の配列や名詞の修飾構造の区別が分類の尺度としてとりあげられることが多いが、形容詞という品詞に焦点をあてた言語類型の考察は未だ少ない。本発表では、動詞と名詞の叙述機能の異なり、すなわち「語義的内容と文法的機能が呼応しあって定めた用法」の差異を、益岡隆志や影山太郎の提起した「出来事」と「属性」という概念でまず把握する。その定義のうえにたって中国語形容詞が「出来事」と「属性」の中間「過程・状態」という叙述機能を果たす場合に生じる構文上の特徴を具体例（①引用動詞“听说过”②“一些”“一点儿”③“走快”“走得快”“走得很快”）をあげつつ検討する。

・朱继征（新潟大学）：语法研究成果在语言教学中的运用－　怎样教学动相形式

“学”与“习”是两个阶段：前者指听课，后者指练习。“学”10 年和“学”1 天并无大异，都是纸上谈兵。但“习”10 年和“习”1 天比，成绩就会迥异。可见成绩的差异主要是来自“习”，而非“学”。所以把听课时间压到最短，把练习时间尽量延长。练习说写比练习听看更易于快速掌握外语。写比说更能使人记忆深刻，但说比写速度快效率高，基于以上理念，我摸索出一套“速问速答教学法”。 进行相的形式在教学中是个难点，理论上讲清“在～”和“～着”的异同后，就应大量练习。本文在讲清两者的异同后，将展示一套专为练习进行相形式而制作的“速问速答教学法”的演习方阵。

◆東海支部例会

◇11 月 10 日（土）中京大学

・韓涛（名古屋大学・院）：方向補語“出”の意味拡張およびその動機づけについて―多義性の立場から―

方向補語“出”には、例えば“跑出大门”［走って正門を出る］、“拿出一张纸”［紙を１枚取り出す］、“露出本性”［本性を現す］、“看出问题的所在”［問題の所在を見抜く］、“高出许多倍”［何倍もすぐれる］などが表すように、複数の意味・用法が認められる。これまで単一の形態と結びついている複数の意味という言語現象については、主に同音異義（homonymy）の立場が取られてきた。本発表では多義性（polysemy）の立場から、方向補語“出”が持っている複数の意味は互いに強い動機づけ（motivation）を有しており、一つのネットワークを形成していると主張する。

・丸尾 誠（名古屋大学）：「開始」を表す中国語の動補構造“V 上”について

現代中国語の方向補語“起（来）”と“上”には、「開始および継続を表す」という用法がみられる。前者の表す開始義は、動詞“起”が起点指向（例：起床）であることがその動機づけとなっている。これに対し、補語“上”の表す「付着」（例：关上窗户）や「目的の達成」（例：考上大学）といった代表的な派生義は動詞“上”が着点指向（例：上楼）であることに基づくものであり、これは補語“上”の表す開始義とは相反するように思われる。本発表では、“上”の表す開始義を動作の実現・ある局面への移行であると捉え、その移行の意味を支える各種要素について言及するとともに、“V 上”の表す意味について考察する。

・楊紅雲（名古屋外国語大学・非）：字幕翻訳に求められる訳語表現の特殊性に関する考察―中国映画『牧夫　魚を飼う』の現場から

映画の字幕翻訳においては、ストーリーのある場面で個性豊かな登場人物たちが発するセリフを、如何にいきた言葉に訳すか、ということが最も重要視される。容赦なく制限された時間（分間、秒間）と空間（スクリーンの端）に打ち込まれた字幕は、正確さ、明瞭さ、面白さを凝らした訳語表現であると同時に、画面に「+α」を与える（ドラマを盛り上げる）存在でなければならない。そのため、時には直訳より意訳、意訳より「感訳」、「感訳」より「省訳」の方がよかったりする。本発表では、今年 9 月に日本で初公開を果たした中国映画『牧夫 魚を飼う』の字幕翻訳現場での実例を材料に、言語教育の視点から、映像作品の字幕翻訳に求められる訳語表現の特殊性について考察する。

・荒川清秀（愛知大学）：簡体字の字体の指導―“宫”“天”“角”はどこから来たか

簡体字がどこから来たかについては多くの研究があるが、“宫”の真ん中の棒がないのは、単に画数を減らしたためだと思っている人が多いし、“天”や“角”がなぜ日本の

常用漢字体と異なるのか説明できる人もほとんどいないのではないだろうか。また、漢字の明朝体（宋体）と手書き体の区別についても意外に知られておらず、日本語の「比」と中国語の“比”が同じ４画であると認識している人も少ない。報告者は、これまで入門段階の簡体字指導においてほとんどとりあげられなかった字体について問題にしたい。

◆関西支部例会

◇6 月 10 日（日）大阪産業大学梅田サテライト

・肖海娜（神戸市外国語大学・院）：由日汉关系从句的非对应看名词性结构功能的日汉差异

本文所说的“关系从句”指的是如下句法格式:「新しく来た留学生」(新来的留学生)。在汉语语法学文献中，这类结构通常被定义为比较复杂的名词性偏正结构。在日语语法学文献中，通常被称为「連体節」。本文按照普通语言学的说法，称之为“关系从句”。在先行研究的基础上，本文从日汉关系从句的非对应关系着手，以口语体裁为中心，分析了与日语关系从句相对应的汉语译文的句法格式，进而探讨了日汉定语从句的功能差异。同时，本文还指出：汉语当中也有与日语的「喚体句」（なんて可愛い子！）相类似的名词句，但是其用法与日语有着显著的差异。

・张睿（大阪大学・院）：分离动词宾语语义多样性及其认知解释

本文试图以动词的一个小类－分离动词为切入点，来探讨现代汉语中广泛存在的宾语语义多样性问题。以四个典型的单音节分离动词为例，语义平面上,列举分离动词的四种语义模式及相关语义角色凸显的可能性；句法平面上，描写每种语义模式下的每种语义角色凸显情况所投射出的句法形式。在此基础上，从认知角度对上述现象的深层成因进行挖掘，总结出语义角色分化的规律，从而对宾语语义多样性作出统一解释。

・岩本真理（大阪市立大学）：概念分類に基づく唐話語彙・近世語語彙調査の試み

太田（1963）『児女英雄伝語彙調査』は「方言調査詞彙手冊」の枠組みに依拠して文学言語の語彙を分類・分析した研究の嚆矢であり、資料内で同義語・類義語が併存し混在する様を映しだした。本発表は唐話語彙を主たる対象として概念分類による整理をおこない、語彙の併存・棲み分け・消長について初歩的な報告を行う。

◆中国支部例会

◇10 月 14 日（日）広島大学東千田キャンパス

・柯惟惟（広島大学・院）：中国と台湾の日系外来語使用の差異

語彙使用の実態を調査するには、直接アンケート調査を行うのが難しい場合には、インターネット上で使用されている語彙を調査するのもの一つの方法である。本調査は三種類の日系外来語の使用状況について、より広範囲にインターネット上で調査する。調査するサイトは、保守的な新聞と使用人数が多いブログである。台湾の『自由時報』と『無名ブログ』、中国の『人民日報』、『新浪微博』を選んだ。これらの公的な新聞記事と私的なブログを調査することにより、台湾と中国との語彙の使用の差異を明らかにすることが目的である。

・丁雷（島根大学）：谈谈汉语单音节声调与双音节声调的教学关系

汉语作为第二外语的教学，多数是以培养学生的会话技能为教学目标。会话技能的提高，与学生的语法能力、词汇量有关，但也与学生的语音面貌（特别是声调的熟练程度）有关。而声调的熟练程度又直接关系到汉语输出的准确性，影响着会话交际的进行，是提高汉语会话技能所不可忽视的教学要素。笔者统计过几本教材中的会话内容，其句型

长度范围为 5±2，内容主要以双音节声调为主，单音节声调出现的频率很低。然而我们在实际的教学中却不难发现，声调教学往往以单音节声调的训练为主，双音节声调的训练却不太受重视。这说明声调教学与实际的会话需求之间存在着矛盾。本文主要分析该矛盾的产生原因，希望这样的探讨能给声调教学带来一些启示。

◆九州支部例会

◇2012 年 7 月 7 日（土）福岡大学文系センター

・宮下尚子(熊本大学・非）：〈阿〉の元代音について

〈阿〉は『中原音韻』では歌戈韻に属する。『蒙古字韻』では〈歌〉部にあり、パスパ文字〈o〉の〈平声〉に対応する韻母を持つとされる。先行研究（藤堂明保 1957、佐藤昭 2002 等）でも〈阿〉を含む歌韻開口一等に属するものは近代漢語では円唇母音［o］に変化したとする。しかし外国資料との対応情況は上記とは矛盾する。つまり『蒙古譯語』ではモンゴル語/e/に対応。明代女真語では〈阿民〉（amin、金啓孮 1984 の転写）のように/a/に対応。時代が下るが『四聲通解』『單字解』では［ə］に近い音を持ち且つ「俗音」として［ʔa］を持つ。しかし、現代北京語では仏典由来の語においても〈阿〉（梵字 a の音訳）は e［ɤ］であり、俗音＝外来語とすることはできない。以上の事実をもとに、本発表では果摂〈阿〉の特殊なふるまいについて論じ、元代の音価と現代語の音価（a と e）との比較について韻書、対音資料、先行研究等により検討する。

・郭楊（長崎外国語大学外国人教師）：様々な中国語の構文構造と格付与

中国語には、いまだ構造が明らかでない構文がいろいろ存在する。たとえば、主要なものだけでも、「在(zai)構文」、「把(ba)構文」、「被(bei)構文」などが挙げられる。「在(zai)」、「把(ba)」、「被(bei)」がそれらに後続する名詞句の関係は何か、それら自身は、V なのか P なのかに問題が集まっている。更に、英語で言われている Case filter では、中国語の現象を説明できないことが明らかである（cf.「大象 鼻子 很长」）。そこで、発表者は中国語の現象に基づいて、英語とは異なる仮説によって、以上のような中国語の構文における問題の説明を試みた。

・李孟娟（熊本大学・院）：中国語の使役的構文――“给”構文について

周知のように、現代中国語の“给”を含む構文には、さまざまな文構造と意味機能がある。発表者が注目しているのは、使役を表す“给”構文の構文上の特徴である。本発表では、使役を表す“给”構文の“给”の後にくる動詞の特徴を考察し、再帰動詞との関わりを検討する。もし“给”の後の動詞が再帰性の高い動詞の場合、文全体が使役の意味を表す。それに対して、もし“给”の後の動詞が再帰性の低い動詞の場合、意味的には、使役を表すパターンと受益を表すパターンが存在しうるということが判明した。さらに、“给”を含む使役表現と“让”を含む使役表現の相違点も検討する。

・平田直子（北九州市立大学）：常州方音における文言音について～『趙元任　程曦　吟誦遺音録』を手がかりとして～

趙元任が幼少期の教育において、郷里の方言音である常州話を用いて文言文を読み、詩を吟じていたことは『我的語言自伝』（1971）などに記されている。『趙元任　程曦　吟誦遺音録』（2008 年）は、趙元任がその常州方音で吟唱した古典詩文の録音を基に、秦徳祥氏などが楽譜と音声記号に起こしたものである。本発表では、四書五経・唐詩などの文言文を常州方音の文言音で読むという伝統に着目し、『遺音録』の記録と現代常州方音とを対照させることで相違する点を明らかにし、常州方音における文

言音の特徴を考察してみたい。

・陳喜真（熊本学園大学大学院）：《醒世姻缘傳》中的“待”

《醒世姻缘传》中的“待”除了有“等待、等候”、“对待”、“接待、招待”等常见的含义和用法之外，还有一些比较特殊的用法，特别是其具有一种反语功能的用法。 单音节的“待”有几种特殊用法:(1) 相当于“得”（děi）, 表示“需要”义。（2）副词，相当于：即将，就要。（3）表示使动，相当于“让”。（4）表示意愿，相当于：想 、要、打算 。还有与“待”结合而成的比较特殊的词或词组, 如：表示“极想，急着要”的“极待/急待” ；表示已然的“直待”；表示“直想，打算”的“只待”； 表示已然，相当于“刚刚，才”的“才待”；表示“即将，快要”的“待中”； 表示动作的勉强或态度敷衍的“待～不～ ”这一结构形式。以及“待”的反语功能的用法。 通过与其他文献资料的对比分析，发现一些《醒》中的用法，未见于《金瓶梅》、《续金瓶梅》, 却还存活于河南沁阳方言。

・王慶（九州大学人文科学研究院専門研究員）：you(有)と dou(都)

存在を表す you(有)に関して、Huang (1987)のような、動詞であるとみなしている見方もあれば、Tsai(2003)のような、Sentential Operator であるとみなしている見方もある。本発表では、you(有)の 2 種類の意味解釈に注目し、you(有)は動詞ではなく、機能範疇(Functional Category)であると考えたい。さらに、その異なる意味解釈は、それぞれ 2 種類の構造から導かれると提案する。そして、この構造の違いは分配を表す dou(都)の意味解釈にも影響を及ぼすことを示す。

会則改正のお知らせ

■ 2012 年 10 月 27 日、同志社大学で開催された総会において、以下の会則の改正案が承認されました。

改正前	改正後
第 9 条［役員の任期］ 2. 理事の任期は 1 期 2 年, 連続 2 期までとする。ただし，間に 2 年をおいて再任されることを妨げない。 付則 3. 本会則第 9 条第 2 項については，2012 年度理事選挙より適用し，この時すでに連続 2 期理事職にあるものは被選挙人名簿から外すこととする。	付則 3 を削除

【改正理由】2012 年度の理事選挙用の付則であり、すでに不要となったため。

内規改正のお知らせ

■ 2012 年 10 月 27 日、同志社大学で開催された評議会において、内規の改正が承認されました。

改正前	改正後
『中国語学』編集委員会に関する内規（→第 15 条，第 16 条関連） (2) 委員 ウ 委員の改選は，本委員会と理事会の協議によって発議し，会長が委嘱する。	ウ 委員の改選は，本委員会が発議し，理事会の承認を経て，会長が委嘱する。

【改定理由】現状に合わせるため。

改正前	改正後
ウェブリソース委員会に関する内規（→第 15 条，第 16 条関連） (2) 委員 ウ 委員は 1 年ごとに半数を改選する。改選は本委員会と理事会の協議によって発議し，会長が委嘱する。	ウ 委員は 1 年ごとに半数を改選する。委員の改選は本委員会が発議し，理事会の承認を経て，会長が委嘱する。

【改定理由】現状に合わせるため。

改正前	改正後
全国大会運営委員会に関する内規（→第 15 条，第 16 条関連） (2) 委員 ウ 委員の改選は本委員会と理事会の協議によって発議し，会長が委嘱する。	ウ 委員の改選は本委員会が発議し，理事会の承認を経て，会長が委嘱する。

【改定理由】現状に合わせるため。

改正前	改正後
［会費納入に関する特別規定］ 1. 通常会員のうち，必要な情報を学会ホームページによって取得する会員を「ネット会員」と呼び，会費を 1,000 円割引する。この優遇措置は，海外会員には適用されな	1. 通常会員のうち，必要な情報を学会ホームページによって取得する会員を「ネット会員」と呼び，会費を 1,000 円割引する。この優遇措置は，海外会員には適用されな

い。ネット会員には『中国語学』，会員名簿及び会費請求は郵送するが，それ以外の文書(ニューズレター, 支部例会通知等)は郵送しない。	い。ネット会員には『中国語学』，会員名簿及び会費請求は郵送するが，それ以外の文書(ニューズレター等)は郵送しない。

【改定理由】支部例会通知のハガキを廃止する方向にあるため。

会議報告

■全国大会運営委員会

委員：遠藤光暁(委員長)、遠藤雅裕、
大西博子、佐々木勲人、沈力、石汝杰、
竹越孝、張勤、丸尾誠、三木夏華、森宏子

1. 2012 年度大会審査結果
応募総数 91 件，うち締切以後到着 1 件・非会員 1 件・会費未納者 2 件を除外し，有効応募数は 87 件。審査の結果，口頭発表(有講評)7 件，口頭発表 47 件，ポスター発表 19 件，計 73 件を採択した。不採択件数は 14 件。

2. 重複応募の規定について
「他学会・雑誌等で正式に発表したもの及び発表予定のものを二重に申込むことはできない。」という規定があるが，本学会の支部例会で発表した上で大会で発表することは従来通り奨励される。

3. 2013 年度大会開催校(2012 年度 6 月開催の第一回理事会で承認済み)
東京外国語大学に内定、開催校代表は三宅登之理事、開催時期は例年通り2013年10月末頃を目指すが期日の最終確定は2013年4月頃となる予定。

4. 新旧委員の交代
任期満了：遠藤光暁（旧委員長)、沈力(2012 年度大会開催校代表) 、佐々木勲人、
石汝杰、張勤
再任：竹越孝(新委員長*)、遠藤雅裕、
大西博子、丸尾誠、三木夏華、森宏子
2012 年度大会終了日の翌日より二年任期
新任：三宅登之(2013 年度大会開催校代表、理事、一年任期)、于康、木津祐子、更科慎一、朱継征

* 新委員長の人事については 2012 年度 6 月開催の第一回理事会で承認済み。

5. ワークショップの活動費支給
ワークショップは発表者間の緊密な連携が必要であり，また他分野の研究者や海外の研究者をまじえることもあるので，採択されたワークショップについては一グループにつき 2 万円の活動費を発表当日に支給するようにしたい。

■ 編集委員会

2012 年 5 月から 9 月の間、メールによる審議を行った。

◆2012 年度・2013 年度新旧合同編集委員会（259 号第 3 回、260 号第 1 回編集委員会）
日時：2012 年 10 月 27 日（土）
場所：同志社大学
出席者：大西克也（委員長）、三宅登之、(以上 2012 年度委員)、石村広、朱春躍、
中西裕樹、(以上 2012、2013 年度委員)、
小野秀樹、佐々木勲人、沈力、松江崇（以

上 2013 年度委員）
欠席者：楊凱栄（2012 年度委員）、中川裕三（2012、2013 年度委員）

【報告】

1．『中国語学』259 号刊行について
『中国語学』259 号が，10 月 27 日付けで刊行された。

【議事】

1．2013、2014 年度委員長に小野秀樹委員を選出した。
2．委員会業務の引き継ぎを行った。

■ウェブリソース委員会

委員の異動
2013 年 3 月末で澤田達也委員が任期満了となる。後任には植屋高史会員（千葉大）を推薦。

■辞典編纂委員会

委員：平田昌司（委員長）、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄

下記の日程で委員会を開催：
全体会議：2012 年 10 月 28 日（同志社大学）
関東会議：2012 年 7 月 7 日（岩波書店）、9 月 14 日（岩波書店）、10 月 20 日（東京大学駒場キャンパス）
関西会議：2012 年 5 月 26 日（関西大学）、7 月 16 日（鍵屋荘）、9 月 15 日（関西大学）
『中国語学辞典』の編纂方針を確定し、項目選定を進めた。現代語文法(約 500 項目)について、日本語見出し案・字数ランクの案を作成。　文法項目について、歴史・現代の“コラボ項目”一覧の作成。見本項目原稿の作成。

■ 2012 年度第 2 回理事会

日時：2012 年 10 月 26 日（金）17 時～19 時
場所：同志社大学夢告館第 1 会議室
出席者：古屋昭弘（会長）、太田斎（副会長）、大西克也*、小野秀樹、佐藤富士男、三宅登之；
遠藤光暁（大会運営委員長）；
鈴木慎吾（ウェブリソース委員会委員長）；
楊 達、千葉謙悟（以上幹事）
欠席者：楊凱栄、依藤醇（以上理事）
* 編集委員会委員長を兼ねる

■2012 年度評議会

日時：2012 年 10 月 27 日（土）10 時 30 分～11 時 30 分
場所：同志社大学　恵道館二階 KD202
出席者：構成員 46 名（定数 61 名）

■2012 年度総会

日時：2012 年 10 月 27 日（土）17 時～18 時
場所：同志社大学　恵道館二階 KD201

【議長選出】

議長に秋谷裕幸会員（愛媛大学）と飯田真紀会員（北海道大学）を選出した。

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 会員動向（10 月 1 日現在）

会員数：(2011 年 10 月 1 日から 1 年間の増減：除籍予定者、住所不明者、年度末退会予定者を含む)
〔今年度除籍予定者〕25 名（国内会員 20 名/ 海外会員 5 名）

			増減
総会員数（賛助除く）		1224 名	−26
（内訳）	顧問	6 名	±0
	名誉会員	25 名	±0

		通常会員	818 名	−26
		ネット会員	276 名	−4
		団体会員	9 名	±0
		海外会員	90 名	+4
賛助会員			24 社	−4

＊ 会員動向については、直近の数字ではなく、4 月 1 日付の状況を春の理事会に、10 月 1 日の状況を秋の理事会に報告する。[除籍者は 10 月中に確定]

＊ e-naf の管理者ページには、賛助会員およびダミーデータ 1 名および海外特別編集委員 4 名と国内寄贈会員 1 名を加えた合計 1254 名を「現在の会員数」として表示［10 月 1 日付]。

1.2 支部例会関連

・『中国語学』259 号「彙報」を参照。

・支部例会開催通知は現在ハガキとメールの２本立て。更に学会ホームページその他での掲示もある。経費削減のためにもハガキを廃止する方向に進んでいきたい。もちろんどうしてもハガキが必要という方には郵送を継続する。

2. 編集委員会報告

・『中国語学』259 号、2012 年 10 月 27 日、1,480 部発行

・学会奨励賞受賞者として以下 1 名を推薦

髙橋康徳氏（東京外国語大学・大学院総合国際学研究科・博士課程）「上海語声調音韻論における窄用式変調の地位」

・新旧委員の交代

任期満了：大西克也、三宅登之、楊凱栄

再任：朱春躍、中川裕三、石村広、
中西裕樹

新任：小野秀樹（理事枠)、沈力、
佐々木勲人、松江崇

3. ウェブリソース委員会報告

2012 年 3 月末で澤田達也委員が任期満了となる。後任には植屋高史会員（千葉大）を推薦。

4. 大会運営委員会報告

a. 新旧委員交代

・2012 年大会終了日の翌日より二年任期で、

任期満了：遠藤光暁（旧委員長)、沈力（2012 年度大会開催校代表)、佐々木勲人、石汝杰、張勤

・再任：竹越孝（新委員長)、遠藤雅裕、
大西博子、丸尾誠、三木夏華、森宏子

・新任：三宅登之（2013 年度大会開催校代表、理事、一年任期)、于康、木津祐子、
更科慎一、朱継征

b. 2012 年度大会審査結果

応募総数 91 件、うち締切以後到着 1 件・非会員 1 件・会費未納者 2 件を除外し、有効応募数は 87 件。審査の結果、口頭発表（有講評）7 件、口頭発表 47 件、ポスター発表 19 件、計 73 件を採択した。不採択件数は 14 件。

c. 重複応募の規定について

「他学会・雑誌等で正式に発表したもの及び発表予定のものを二重に申込むことはできない。」という規定があるが、本学会の支部例会で発表した上で大会で発表することは従来通り奨励される。

d. ワークショップの活動費支給

ワークショップは発表者間の緊密な連携が必要であり、また他分野の研究者や海外の研究者をまじえることもあるので、採択されたワークショップについては一グループにつき 2 万円の活動費を発表当日に支給するようにしたい。

5. 辞典編纂委員会報告

委員会開催状況（別記の会議報告・辞典編纂委員会の項を参照）

出版社企画決定について

2012 年 9 月 29 日に、岩波書店の企画会議で刊行計画が決定した。

・概要:本学会創立 70 周年記念事業として 2016 年秋刊行。中国語学に関する総合的な辞典で、本学会が編纂し、組版から発行までを岩波書店が担当する。

・項目数・構成：中国語学の諸分野にわたる約 1,200 項目を日本語で立項する. 項目名の中国語（簡体字）表記・英語表記を各項目に付す. 各項目に 3,000 字～200 字の解説を施す. 解説文も日本語、例文は中国語簡体字で表記する.

・付録（後付け）：文献目録および日本語・中国語・英語索引.

・執筆者の原稿に対しては、辞典編纂委員会が最終的な加筆修正の権限をもつ。

・2014 年秋をめどに、学会内部で校閲（最終的には辞典編纂委員会が担当）までを終えた原稿を引き渡し、出版社側が組版・校正・印刷・製本を行い、2016 年秋に刊行する。

・原稿料・印税・謝金等はなく、献本も前提としない。学会側の買い取り・費用負担も必要ない。第二刷以降は、印税を出版社から「日本中国語学会」に支払う。

・読者対象ほか：中国語学の研究者のみならず、中国語学に関心をもつ日本語・言語学・中国学などの隣接分野の研究者、大学の研究室・図書室に普及させられる内容にするべく努力する。

・四六判で 900 ページ程度。価格はできるだけおさえることを目標としている。

・将来的な電子出版の可能性を考えつつ編纂する。

現在の検討状況

現代語文法(約 500 項目)について、日本語見出し案・字数ランクの案を作成。文法項目について、歴史・現代の“コラボ項目”一覧の作成。見本項目原稿の作成。

委員の辞退について

池田巧委員から委員辞退の申し出があり、委員会として承認した。

6. 次期大会開催校の決定

東京外国語大学、2013 年秋。

7. 役員・委員等の異動について

来年度からの新規大会運営委員長を竹越孝、運営委員を三宅登之（2013 年度大会開催校代表、理事、一年任期）、于康、木津祐子、更科慎一、朱継征の各氏に委嘱。遠藤光暁委員長および沈力（2012 年度大会開催校代表）、佐々木勲人、石汝杰、張勤の各委員は今年度大会後、任期満了により退任。新規編集委員会委員長を小野秀樹（理事枠）、編集委員を沈力、佐々木勲人、松江崇の各位に委嘱。

大西克也委員長および三宅登之、楊凱栄の各委員は今年度大会後、任期満了により退任。

8. 著作権規定制定について

大西理事より著作権規定制定に向けての提案がなされ、著作権に関する日本中国語学会の取り組みの現状、起こり得る問題、決めるべき問題などについて詳しい説明があった。今後、大西理事のほか古屋会長・太田副会長・新任編集委員長とで協議していくことに決定。

9. その他

古屋会長から名簿の発行、会費の納入状況、科研費申請、顧問・名誉会員の推挙についての報告があった。科研費については、来年度の申請を目指すこと、そのために『中国語学』

に必ず英文要旨をつける必要があることなどについて説明があった。

【審議事項】

1. 会則の改正について

古屋会長より会員に関する会則の改正についての提案があり、承認された。詳細は本号「会則改正のお知らせ」(p.9) を参照。

2. 内規の改正について

古屋会長より以下の内規について、改正の提案があり、承認された。

【改正項目】

•編集委員会に関する内規
•ウェブリソース委員会に関する内規
•大会運営委員会に関する内規
•会費納入に関する特別規定

詳細は本号「内規改正のお知らせ」(pp. 10-11) を参照。

3. 予算案・決算案

3.1　2011 年度会計決算案（次頁資料参照）

緑川幹事による報告・説明、及び矢放会計監査による会計監査報告があり、報告の通り承認された。

3.2　2012 年度会計補正予算案（同上）

千葉幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

3.3　2013 年度会計予算案（同上）

千葉幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

訃　報

顧問・名誉会員の逝去

鐘ヶ江信光（かねがえ　のぶみつ）顧問　1912 年、大阪市に生れる。2012 年 12 月 5 日逝去。山口高等商業学校(現山口大学)・東京外国語大学等に勤務。東京外国語大学では学長、中国語学研究会、中国語学会においては理事、理事長をつとめられた。著書に『中国語辞典』『中国語のすすめ』ほか。

鶴田義郎（つるた よしろう）名誉会員　1922 年、菊池市に生れる。2012 年 5 月 16 日逝去。熊本商科大学・九州東海大学等に勤務。中国語学研究会、中国語学会において支部理事などの役職をつとめられた。著書に『赤煉瓦』ほか。

ここに会員各位にお知らせするとともに、永年にわたって本会ならびに斯学の発展に寄与された先生方の多大な功績とご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2012年12月

日本中国語学会会長　古屋昭弘

2011 年度会計決算書（2011 年 4 月～2012 年 3 月）　2012 年 10 月 27 日総会承認

＜収入＞（単位:円）	予算	決算
前年度繰越金	4,440,835	4,440,835
積立金	2,640,000	2,640,000
通常会員･海外会員会費収入	6,000,000	7,303,940
賛助会員会費収入	600,000	870,000
『中国語学』売上金	409,369	409,369
予稿集売上金	450,000	514,300
印税(著作権使用料)	32,000	32,000
通常貯金利子		297
別刷追加分料金		17,860
計	14,572,204	16,228,601

＜支出＞	予算	決算
会誌印刷費	2,800,000	2,419,095
予稿集印刷費	500,000	448,050
大会助成費	300,000	120,618
支部活動助成費	550,000	183,384
通信費	550,000	610,007
事務費	1,800,000	2,045,785
大会事務費	800,000	199,404
事務局費	250,000	250,000
編集委員会経費	120,000	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000	120,000
ホームページ関連経費	180,000	0
大会運営委員会経費	220,000	211,849
旅費交通費	750,000	616,000
会議費等雑費	180,000	97,920
学会奨励賞	0	0
選挙関連費	100,000	0
積立金	2,360,000	2,360,000
［内訳］		
記念大会積立金（18 万）		
事務委託関係積立金（118 万）		
ウェブサイト構築積立金（50 万）		
国際会議開催支援積立金（50 万）		

予備費	2,992,204	6,426,489
計	14,572,204	16,228,601

監査の結果、経理内容は適正であり、経理諸表は適確に処理されていることを認めます。

2012 年 8 月 10 日

2011 年度会計監査　矢放昭文

2011 年度会計監査　沈　　力

2012 年度会計補正予算案（2012 年 4 月～2013 年 3 月）　2012 年 10 月 27 日総会承認

＜収入＞	
前年度繰越金	6,426,489
積立金	2,360,000
通常会員会費収入	6,800,000
賛助会員会費収入	780,000
『中国語学』売上金	408,152
予稿集売上金	450,000
印税	45,000
計	17,269,641

＜支出＞	（単位:円）
会誌印刷費	2,800,000
予稿集印刷費	500,000
大会助成費	300,000
支部活動助成費	450,000
通信費	500,000
事務費	2,100,000
大会事務費	800,000
学会連合等年会費	42,000
事務局費	350,000
編集委員会経費	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000
ホームページ関連経費	180,000
大会運営委員会経費	220,000
旅費交通費	750,000
会議費等雑費	180,000
学会奨励賞	100,000
名簿印刷費	780,000
積立金	2,400,000
[内訳]	
記念大会積立金（22 万）	
事務委託関係積立金（118 万）	
ウェブサイト構築等積立金（50 万）	
国際会議開催支援積立金（50 万）	
予備費	4,577,641
計	17,269,641

2013 年度会計予算案（2013 年 4 月～2014 年 3 月）　2012 年 10 月 27 日総会承認

＜収入＞	
前年度繰越金	4,577,641
積立からの繰入金	2,400,000
通常会員会費収入	7,000,000
賛助会員会費収入	780,000
『中国語学』売上金	350,000
予稿集売上金	450,000
計	15,557,641

＜支出＞	（単位:円）
会誌印刷費	2,800,000
予稿集印刷費	500,000
大会助成費	300,000
支部活動助成費	450,000
通信費	500,000
事務費	2,100,000
大会事務費	800,000
学会連合等年会費	42,000
事務局費	350,000
編集委員会経費	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000
ホームページ関連経費	180,000
大会運営委員会経費	220,000
辞典編纂委員会経費	120,000
旅費交通費	750,000
会議費等雑費	180,000
学会奨励賞	100,000
選挙関連費	100,000
積立金	2,440,000
[内訳]	
記念大会積立金（26 万）	
事務委託関係積立金（118 万）	
ウェブサイト構築等積立金（50 万）	
国際会議開催支援積立金（50 万）	
予備費	3,385,641
計	15,557,641

例会および全国大会開催のお知らせ

今年度の例会実施予定

各支部の今後の例会実施予定は次のようになっております。

北海道支部：3 月
北陸支部：3 月
関東支部：12 月
九州支部：12 月

関西支部の 12 月例会は 2 日に開催済みです（要旨は次回のニューズレターに掲載の予定）。

支部例会の発表者、参会者ともに歓迎いたします。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしております。この要旨は、学会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しています。年に 2 回発行の学会ニューズレターにも掲載します（頁数の関係で掲載できないこともあります）。

なお、開催予定は変更になることがありますので、詳細は、各支部例会担当者までお問い合わせ下さい。担当者の連絡先は、学会ウェブサイトをご参照ください。

（事務局）

第 63 回全国大会開催のお知らせ

日本中国語学会第 63 回全国大会は、2013 年秋に東京外国語大学にて開催されます。どうぞふるってご参加ください。詳細は 2013 年 4 月初旬までに学会ホームページに掲載されます。

（第 63 回全国大会準備会）

事務局からのお知らせ

■ 会費未納による除籍者

（「会費納入に関する内規」による）

ќ　　ɟ"　Ẅ ☼ ¸ ♥ Ẅ ⌐

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出ください。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、ご連絡をお願い致します。

ќ　　ɟ"　Ẅ ☼ ¸ ♥ Ẅ ⌐

■ 2012 年度会費納入のお願い

会費未納の方には、11月末に振込用紙を同封して納入依頼のご連絡をお送りしました。年会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務処理上、2012年12月31日までにご入金くださいますよう、御協力をお願い致します。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00980-6-282216

■ 顧問・名誉会員の推挙

顧問・名誉会員のご推挙は、推薦文を添えて2013年9月30日までに事務局宛にお願いいたします。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第59回までは1500円、それ以降は2000円となっております。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（**order@kohbun.co.jp**）に直接お問い合わせください。

■ 事務局への連絡先

各会員の登録情報は、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の e-naf（オンライン会員情報管理システム）から、会員ご自身でログインして確認と更新ができます。事務局への問合せは、学会ウェブサイトの「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2012 年秋季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院
中国語学中国文学研究室内
E-mail: jimukyok@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2012 年 12 月 10 日